

授業科目名 (英文名)	外書演習 (Advanced seminar)	科目区分 対象学生	
単位数	4.0	開講年次・ 学期	2
担当教員	山田 一夫	所属	
オフィス・場所		連絡先	
講義目的及び到達目標	<p>税と社会保障(年金)、環境問題(地球温暖化)、労働問題(働き方改革)、金融政策などの日本経済のトピックスについて、自分のテーマ(研究課題)を見つけて、政策提言ができるようにすること。今年度は、トピックスとして行動経済学を取り上げる。</p> <p>また、3回生のゼミナール選択を行うため、主体的に研究を進め、成果をレポートにまとめ、プレゼンテーションを行うことを到達目標とする。</p>		
講義内容・授業計画	<p>講義内容</p> <p>前期はゼミナールで研究するスキルを練習する。各自のテーマを見つけるために、資料を受講者が報告し、ディスカッションを行い、課題を見つけていく。各自が選ぶテーマは自由に選ぶことができるが、演習で提供する教材は、行動経済学、税と社会保障(年金)、環境問題(地球温暖化)、労働問題(働き方改革)、ビット・コイン、リスクの問題などである。その他のテーマを選んだ場合は、各自で資料を探すことになる。これらの資料を下記の「研究報告」で担当者がレジюмеを作成し報告する。レジюмеを作成するための練習を下記の「レジюме作成」で行う。前期はレポート作成の練習も行う。身近なテーマについて、3枚程度のレポートを手順にしたがって作成する。このレポートは後期にゼミナールの中で改良を行う。</p> <p>後期は各自の関心をもったテーマについて、10枚程度のレポートを作成するように指導する。また、各自のレポートについて報告する機会を用意する。場合によっては中間報告の機会を設ける。</p> <p>前期・後期それぞれ2回程度、資料を報告する機会を用意する。</p> <p>夏季休暇中に外国文献を2本以上各自で収集する。収集した外国文献を使って、後期のレポートを作成する。</p> <p>授業計画</p> <p>前期</p> <p>1 オリエンテーション、自己紹介</p> <p>2 VIDEO教材を使ったディスカッションの練習</p> <p>3-6 レジюме報告</p> <p>7 レジюме報告・中間プレゼンテーション</p> <p>8 中間プレゼンテーション</p> <p>9-13 研究報告</p> <p>14-15 最終プレゼンテーション</p> <p>夏季休暇</p> <p>外国文献収集</p> <p>後期</p> <p>1 夏季休暇報告会</p> <p>2-10 資料輪読・ディスカッション</p> <p>11-15 プレゼンテーション</p>		
テキスト	使用しない。		
参考文献	<p>小塩隆士(2015) 『18歳からの社会保障読本：不安のなかの幸せをさがして』 ミネルヴァ書房</p> <p>スタッカー、バス(2014) 『経済政策で人は死ぬか?：公衆衛生学からみた不況対策』 草思社</p> <p>多田洋介(2014) 『行動経済学入門』 日経文庫</p> <p>友野典男(2006) 『行動経済学：経済は「感情」で動いている』 光文社新書</p>		

	<p>中島さおり (2010) 『なぜフランスでは子どもが増えるのか』 講談社現代新書</p> <p>吉本佳生 (2013) 『日本の景気は賃金が決める』 講談社現代新書</p> <p>吉本佳生、西田宗千佳 (2014) 『「ビットコイン」のからくり』 講談社ブルーバックス</p> <p>すべて学術情報館所蔵。</p>
成績評価の基準・方法	<p>成績評価の基準 各自の研究テーマを探し、それについてレポートを作成し、プレゼンテーションを行うことができる者に単位を授与する。 講義目的・到達目標に記載する能力（知識・技能、思考力、判断力、表現力等）の到達度に応じてSからCまで成績を与える。</p> <p>成績評価の方法 出席を前提に、レポート（50%）、報告（20%）、ディスカッション参加度（30%）で評価する。出席状況が悪い場合は単位を認定しないので注意すること。</p>
履修上の注意・履修要件	<p>1) ディスカッションを重視します。参加する意志のない人は受講を遠慮してください。ただし、ディスカッションが不得意だけどやる気のある人は歓迎します。</p> <p>2) レポートの書き方については、下記の参考文献に従って作成してください。表紙については履修の手引きの該当箇所を参照してください。レポートで剽窃が発覚した場合は0点となるので注意してください。</p> <p>沼崎一郎 (2018) 『はじめての研究レポート作成術』 岩波ジュニア新書</p>
実践的教育	該当しない
備考	自分の研究テーマを発見できるようにがんばりましょう。